

【選択肢を増やす】

私が南花台中学校に赴任して間もなく4年、最初に出会った3年生が高校の卒業を迎える時期です。早くも何人かの卒業生から、高校卒業後の進路について報告がありました。大学や専門学校に進学する生徒、就職を選んだ生徒など、夢をもって進路を選択していく卒業生は、とても頼もしく見えます。

以前、とある研修会で、大学受験に関わる話を聞きました。高校受験については分かっているつもりですが、大学受験となると知らないことがたくさんあり、中でも、総合型選抜の話は新鮮でした。総合型選抜とは、学力試験の点数に加えて、志望理由書、面接、小論文、プレゼンテーションなどを通じて、受験生の「熱意」「適性」「入学意欲」を多面的に評価する入試方式だそうです。学ぶ目的、学びたい内容、学ぼうという情熱をどれほどしっかり持っているのかが試されるようです。

では、生徒はいつ、どんなふうに学ぶ目的や内容を絞っていくのだろうか、ふと考えました。自分の好きなことや得意分野の中から絞り込んでいくのでしょうか、そもそも何が好きか、何が得意なのかはやってみなければわかりません。

やってみる、これが中学校段階で必要なことなのかもしれません。このように考えると、当たり前のことですが、授業では单元ごとに生徒が興味を持つように工夫したり、学校生活を通じて多様な体験の機会を用意したりすることが重要です。もちろん現在もそのように取り組んでいますが、さらに工夫できることを考えて、生徒が「学んでみる」「触れてみる」「体験してみる」ことで、将来進路を選ぶ時の選択肢を多くしておきたいと思います。地域や家庭でも、そういう視点で、生徒に情報や体験の機会を与えていただければと思います。ただし、いくら機会があっても、生徒が食わず嫌いで尻込みしてはいけません。とりあえずやってみようと思えるように、応援もしていきましょう。

余談ですが、私自身の場合は、中学1年のときの国語の先生が、自作の詩(今でも覚えています)を紹介してくださって以来、国語が好きになり、さらに高校1年の古典の時間に和歌を習ったときに平安貴族の生活に興味をもって、もっといろいろな和歌を知りたいと「古今和歌集」を読み始め、すっかりハマったのが、進路選択のきっかけです。今思えば、通学電車で「古今和歌集」を読む、なんとも個性派の高校生でした。

校長 上代 婦美子



主体的で、自立した中学生になろう!
 教室棟に階段があがると、3学期の始業式の中で校長先生お話をされていた。「目標」と「目的」のフラッシュカードが掲示されています。せっかくに決めたことでも、時がたてば忘れてしまったり見失ったりしてしまうこともありますが、この掲示物を目にするたび、新年に立てた「目的」や「目標」を思い出し自分を鼓舞することができますね。

1年生 郷土歴史学習

「文化財」「河内長野の歴史(明治～昭和)」「河内長野の特産品」などについて学びました。河内長野市文化財保護課の方にゲストティーチャーとして来ていただきました。



今月の校長室の飾りつけ

恒例となっている校長室の飾りつけ。今月は私立高校の受験があるということもあり、校長先生から3年生に向けて【愛のだるま】と【節分】の手作りの飾り物が! だるまには「合格」「必勝」「健康」などが願掛けしてあります。今年の節分の日にも赤おにと青おには現れるのかな?

